
【編集後記】『現象と秩序』第19号をお届けします。

今号は巻頭に、気鋭の社会学者である岡村逸郎氏によるテレビアニメ作品論を配し、本誌の読者数の飛躍的増大を狙っています。どうか、周囲のアニメ研究者や文化社会学研究者にお勧めください。さらに、内容を読んで頂くとわかるように、青年論や死の社会学としての側面も持った論考になっています。この多面性こそは、学際誌としての本誌の特徴を上手に活かした議論の仕方になっていると思います。

第2論文は、村中淑子氏による色彩語研究論文です。出だしが魅力的です。村山由佳のエッセイ（『命とられるわけじゃない』）の中での「チョコレート色」の使われ方から話題を立ち上げて、これまでほとんど研究されてこなかった＜外来語名詞＋色＞に関するチャレンジな議論を展開しています。言語学に関心がある読者だけでなく、社会のなかで様々な意味が相互にどのようにネットワークを形成しているのか、ということに関心を持っている（広義の）社会学者にも興味深い論考になっています。

第3論文は、身体論を専門に研究している堀田裕子氏による、これもチャレンジングな議論です。「鏡」は、人間ではないにもかかわらず「試着場面」においては、「試着者」と「店員」の両方が「鏡」に写っている客の画像を中核的関心対象として扱っています。堀田氏は「鏡はアクターだ」とまでいいます。その主張の適否をどうぞ吟味して下さい。

第4論文は、樫田による「暗号の社会学」です。今回扱っているのは「公務員試験問題の“教養試験”の中の“判断推理”という一群の問題群の中の“暗号問題”」ですが、じつは人間は「暗号」をめぐる社会的期待と期待の摺り合わせをしています。そのような人間ネットワークの在り方の中に公務員試験の「暗号」もあるのだ、という大きな論考の一部として、今回の論考は構想されています。次稿も請うご期待、です。（Y.K.）

『現象と秩序』編集委員会（2023年度）

編集委員会委員長：堀田裕子（摂南大学）

編集委員：樫田美雄（摂南大学）、中塚朋子（就実大学）、加戸友佳子（摂南大学）

編集協力：村中淑子（桃山学院大学）

『現象と秩序』第19号 2023年 10月31日発行

発行所 〒572-8508 大阪府寝屋川市池田中町17-8

摂南大学 現代社会学部 樫田研究室内 現象と秩序企画編集室

電話・FAX) 072-800-5389 (樫田研), e-mail: kashida.yoshio@nifty.ne.jp

PRINT ISSN : 2188-9848

ONLINE ISSN : 2188-9856

<http://kashida-yoshio.com/gensho/gensho.html>
